

対象地

幸野川橋梁

所在地 : 熊本県阿蘇郡小国町
宮原字西村
完成年 : 昭和14年

宮原線

全長 : 26 km
(小国町～大分県九重町間)
全線開通 : 昭和29年
廃線 : 昭和59年



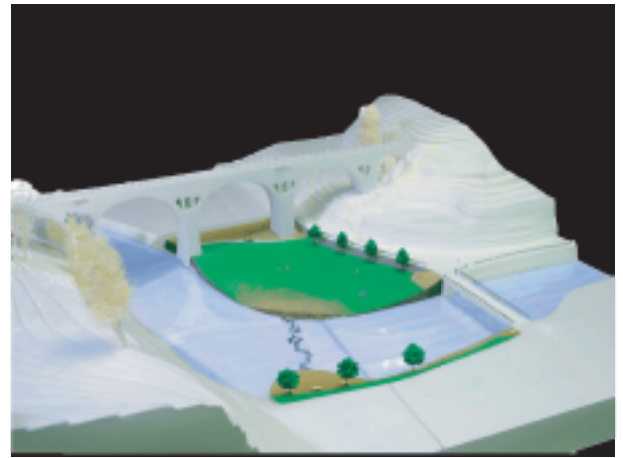
概要

小国町には戦前に旧国鉄宮原線の開通に伴い建造された連続アーチ鉄道橋が残っています。近年この橋梁群が熊本県の近代文化遺産に登録されたことにより、地元住民が中心となって旧国鉄宮原線の跡地活用を考えるワークショップ等が行われるようになりました。その中でこの宮原線を活用し、より良くするために専門家また大学生という立場から提案を行いました。

そもそも、学生と小国町との出会いは、藪潜隊から始まりました。藪潜隊とは、小国町の住民、学生を含め19人が参加し、宮原線跡地における未整備の区間の現状を確認するため、約8kmの区間を歩くイベントです。その後、現存する7橋のうち、幸野川橋梁、堂山・汐井川橋梁、廣平橋梁の4橋について最も美しく見える場所の探索を行いました。この結果、橋自体が特異であり、アクセスしやすい場所にあることから幸野川橋梁周辺の整備を提案することに決めました。そして、学生でパネルと現況模型を作成し、小国町の住民とワークショップを行いました。

このように、学生からの一方的な提案ではなく、小国町の地域住民の方々とのワークショップを通して相互の交流を図りました。学生が提案し、それに対して地域住民の意見を聞く。そうすることで、地域に根ざした提案を行いました。具体的に目指したのは、①周囲の環境を壊さない空間。幸野川橋梁付近は自然に溢れた場所であり、また橋梁自体に歴史と雄大さがあります。それらとの調和を考えると新しく構造物の必要性はないということです。②回遊性を持つ空間。長い距離の宮原線の中で休憩場所として位置付け、訪れた人の足を自然と運ばせるようなものをいくつか設置し、この空間の中をうまく一周できるという2つの提案をしました。

作成したパネルと模型は、後日小国町で行われた小国文化祭で展示され、道の駅であるゆうステーション（小国町大字宮原）に今なお展示されています。



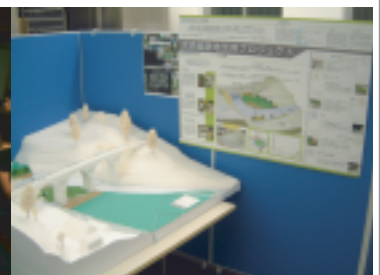
▶ 藪潜隊風景



▶ 学内での模型作成風景



▶ ワークショップ（住民との対話）



▶ 小国文化祭展示風景

備考

参加者 : 男6名・女2名 計8名

URL : <http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/wildcat/2004/civil/civil002/staff.html>